

協働のまちづくり推進委員会（第3回）結果概要

日時：平成23年5月18日（水）18:30～20:00

場所：八戸市庁本館 3階 議会第三委員会室

本会議の結果概要を、次のとおり報告する。

■ 会議概要について

○平成22年度実施事業の評価について

- ・平成22年度に実施された市民奨励金制度に係る事業（4件）、及び市民提案制度に係る協働事業（1件）の評価について、意見交換を実施。
- ・上記意見交換を基に、協働のまちづくり活動成果発表会（6/4開催）における委員会総評案を検討。

■ 今後のスケジュールについて

○今後のスケジュール

6月4日（土）平成22年度実施事業 協働のまちづくり「活動成果発表会」開催

■ 出席者（敬称略） ※参考

- ・北向秀幸 委員長
- ・浮木隆 副委員長
- ・佐藤博幸 委員
- ・中上千壽子 委員
- ・奈良卓 委員
- ・藤村幸子 委員
- ・宮崎菜穂子 委員
- ・市民連携推進課（4名）

協働のまちづくり推進委員会（第3回）議事録

日時：平成23年5月18日（水）18:30～20:00

場所：八戸市庁本館 3階 委員会室

次第

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 平成22年度事業の評価について
 - (1) 市民奨励金制度にかかる事業（4件）
 - (2) 市民提案制度にかかる事業（1件）
- 4 その他
 - 今後のスケジュールについて
- 5 閉会

(次第3)平成22年度事業の評価について

- ・各委員の22年度実施事業に対する評価内容をまとめた資料に基づき、事務局より評価ポイントを絞って説明。
- ・市民奨励金各コース事業（4件）、及び市民提案制度による協働事業（1件）の評価について意見交換を実施。
- ・上記意見交換を基に、協働のまちづくり活動成果発表会（6/4）における委員会総評案を検討。

■初動期支援コース①

豊崎地域づくり実行委員会 / 八戸市小学生駅伝豊崎大会

■事務局

- ・評価される点として、新たな地域イベントの開催が地域内外の諸団体との連携強化につながった、子どもたちの健全育成に貢献した、大会成功のために細やかな配慮がなされていたといった意見が挙げられている。
- ・意見・アドバイスとしては、今後の継続に期待する声がたくさん挙げられており、役割分担や負担軽減を考えながら継続して欲しい、事業実施までの過程をもっと整理する必要があるのではないかなどの意見があった。
- ・地域の皆さんで話し合いをした結果、地域の負担がかなり大きかったという点、駅伝大会以外にも、安全安心など優先して取り組むべき課題があるのではないかというご意見が出ているということで、次回の開催は見送ることになったということをご報告させていただく。

■委員

- ・疲れたのかもしれない。

■事務局

- ・地域の中で開催方法を相談して、またやれるような体制を整えばやりたいという気持ちはあるようだ。

■委員

- ・次回は開催しないということがとても残念だ。1回目はできるかもしれないが、それを2回目以降に継続していくということは、とても大変なことだ。最初から大々的にやり過ぎてしまったのかもしれない。
- ・もう少し小規模で始めて、徐々に広げていったほうがよかったのではないか。
- ・規模を小さくしてでも継続できれば、また変わってくるかもしれない。本当に残念だ。

■委員

- ・私も今の事務局の説明を聞いてがっかりした部分がある。
- ・とてもよいことをされたという思いと同時に、写真などを見る限り、至れり尽くせりで、隅から隅まで全てにおいて頑張ったということが見てとれる。大変だっただろうと感じた。

■委員

- ・このような開催したことのないイベントをゼロから準備して立ち上げるということが、いかに大変かということは、私自身の経験が乏しくても十分分かる。
- ・次年度の開催を見送るということは残念だが、こういうイベントを開催し、いろいろと混乱があったかもしれないが、やり遂げたということ自体に意味があると思う。

■委員

- ・皆さんと大体同じ意見だ。本当に残念だと思う。
- ・豊崎という地域にしては、規模が大きすぎたのかもしれない。もう少し半分ぐらいの規模でこれほどまで至れり尽くせりの状態でなければ続けられたかもしれないと思うと残念だ。

■委員

- ・中止されるにあたって、今回の事業を取りまとめた報告をどこかに残しているのかどうかが気になる。
- ・まちづくりというものは、いろいろな方に受け継がれていくので、中心になった方がやらなくなっても、また同じような事を考えた方が何かの報告を見るなりしてやっていくということも大事な事である。
- ・継続するためには何らかの形で残されたほうがよい。消えてなくなるのは勿体ない。

■事務局

- ・準備の段階からどのようなことをやったかという書類は、冊子にして瑞豊館に保管してあるようだ。次回はこれを見れば出来るはずであるという話はされていた。

■委員

- ・今年度開催されないことについて、委員の皆さんから残念だという声が多かった。
- ・経験値として今後に活かしていただくように意識されてはどうかと思う。

■委員

- ・駅伝大会のコース作りのために道路整備を行ったという事例があり、とてもよいことだと思っていた。駅伝大会は開催しなくても、そういうよい部分は継続して欲しい。

■委員

- ・アンケートでは、一部の人が突っ走ってしまって周りが付いてきていない、つまり合意形成が十分でなかったようだ。

■事務局

- ・23年度は開催しないということであるが、地域としても、学校側としても継続して欲しいという声も出ているようだ。
- ・今後、地域で十分話し合ってみたいという話を（瑞豊館の）館長さんがされていた。
- ・実施時期や学校行事の調整など、様々あるようなので、準備期間がかなり必要なようである。
- ・去年11月に実施して、今年度もまたすぐやるということになると、準備期間が短いということがある。少しひと休みしたいというお考えもあるのではないかと感じた。

■委員

- ・休んでしまうと（次の開催が）やりにくくなる。規模を小さくしてでもやったほうが本当はよい。

■委員

- ・豊崎地区児童マラソン大会のようなものがないだろうか。

■委員

- ・負担にならないように意識しながら、継続されるということを今後ご検討していただきたい。

■初動期支援コース②

南郷の環境を考える会 / 生ごみリサイクル体験学習会

■事務局

- ・評価される点として、取り組み内容について、誰でも気軽に取り組むことができる身近な題材を取り上げている点や、開催方法や周知方法に工夫している点、参加者の意識向上が見受けられているという点が挙げられていた。
- ・意見・アドバイスとしては、学習継続への期待、体験学習メニューの拡充などが挙げられている。

■委員

- ・地域性が表れている事業なので、中心部の方が参加しようとする少し難しい。
- ・町内会で班毎にまとめるとか、個人のお宅中心でなく、地域で取り組むという方法もできるのではないかと思う。

■委員

- ・4回の勉強会のうち、1回だけ参加されているという方がいらっしゃるようなので、もう少し気軽に参加しやすい工夫をしてはどうだろうか。
- ・1回だけ体験という形で参加されてもよいだろうし、他団体とコラボレーションするなど、いろいろな方法で体験していただく取り組みをされたらどうかということを全体としての意見、アドバイスの中からも感じた。

■委員

- ・今後も継続して活動していくと思われるが、どちらかといえば、一部の方だけが活動の中心となっているようなので、アシスタントインストラクターのような、指導ブレンをもう少し増やしていくことが、ひとつの課題ではないだろうか。

■初動期支援コース③

市民活動団体 SMIRING / うつは薬じゃ治らない

■事務局

- ・評価される点として、デリケートな内容の企画であるが 82 名の参加は実施の成果があった、事業タイトルを変えることで参加しやすくなり、マイノリティを大切にするという目的が達成された良い事例である、治療という形ではなく、ラフな感じで参加できるイベントの実施が良かった、参加者の方から前向きな回答をいただいているという点が挙げられていた。
- ・意見・アドバイスとしては、アンケートの記入方法についての工夫、対話セミナーの回数を増やしてもよいのではないかと、広報や人数を集める工夫についてのご意見があった。
- ・計画よりもちらし・ポスターの発行が多かったため、配布先と配布に対する留意点について伺いたいといった質問事項があった。

■委員

- ・報告書に添付されているアンケートは、参加者から提出されたアンケートの全てだろうか。

■事務局

- ・一部のみとのことである。

■委員

- ・シビアな内容のものもあるので、一部のみを提出されたかと思われる。

■委員

- ・この団体は次年度もどこかに応募しようという意向があるのだろうか。

■事務局

- ・当初、23 年度の奨励金に申請したいという話があったが、途中で申請しないということになった。はっきりした理由は聞いていない。

■委員

- ・この団体は、いつ頃にできた団体か。

■事務局

- ・平成 21 年にできた団体である。

■委員

- ・3 年ぐらい経つと、(どの団体でも) 少し疲れてくる。
- ・最初は燃えているので何でも頑張れるが、(申請書を書く) 作業は疲れる。
- ・その他にも、報告書の作成、成果発表会などがある。そうするともう少し休んでもいいかなという気持ちになるかもしれない。

■委員

- ・1 回目と 2 回目の講師が同じ先生のような。人材の繋がりが少し薄いのかも。
- ・この団体はこの事業以外にもおもしろい企画をやっているため、やれることは他にもあるよ

うだが、当初ははっきりとした指針のようなものがなく、何を中心にやるかというものを定めていない団体という感じを受けた。そういう点から見ると、同じテーマで3回やるというのはきついかもしれない。

- ・こういう時代なのでニーズはあると思う。その辺をこのアンケートで拾い上げている。
- ・活動3年目で少し疲れてきたということであれば、また別な方向で何かやって欲しいという気がする。

■委員

- ・この団体は総合福祉会館にもよく出入りして活動している。補助金を出さなくても何かやっていくという感じがする。
- ・うつ病などは昔からあったが、最近ではそれが表に出てくるようになった。こういう活動は否定するものではないし、いろいろな団体がいろいろな形でやっていくことはよいことだろうと改めて報告書を見て感じている。

■委員

- ・対話セミナーを行うことで得られた効果を考えると、次の申請がないからといって、団体自体の継続がないということではなさそうだ。その点については、さほど心配ないのではないかという意見であった。
- ・若い人たちが中心になっているので、仲間内がサークルで集まるように、仕事が終わった後に集っている感じがある。講演会という形でやるのは、今回はお休みしようということかと思われる。

初動期支援コース総評案

★初動期支援コース総評案★

- ・初動期支援コースの3団体は、地域づくり、環境問題、心の健康に関する取り組みと、それぞれに異なる分野をテーマとした活動であったが、どのテーマも、今の時代のニーズを反映したものであり、今後さらに活動の活発化が期待される内容のものである。
- ・こうした活動を継続していくためには、一部のメンバーだけで頑張るのではなく、より多くの協力者を集める工夫や、他団体との連携を深め、互いに協力体制を整えるなどの関係づくりが大切である。
- ・活動を継続していくことで、団体の知名度や、活動に対する世間の認識が高まり、支援者、協力者が増え、活動がさらに充実したものになると思う。
- ・今後も是非、今回の経験を踏まえつつ、活動を継続していただきたい。

■事業拡大支援コース①

NPO 八戸子育てメイトサロンネット「みらい」

／ひとりじゃない「世」つなごう八戸子育て支援事業

■事務局

- ・評価される点として、1つの目的に沿いつつ多角的な取り組みを行っている、子育て中の母親の孤立化防止に一定の役割を果たしている、参加者が多く、市民に認知されている事業であるといった点が挙げられていた。
- ・意見・アドバイスとしては、今後の継続と、各種団体との連携を期待するという意見の他、お金を掛けない工夫について考えてみてはどうかといった意見が挙げられた。

■委員

- ・私の地域（白銀）でも子育てサロンなどを実施しているが、とてもよいことだと思う。
- ・中でも、私たちの世代の方が応援している。子育ての経験を活かした人たちであれば、それなりにいろいろなアドバイスが出来る。
- ・もう少しこれを進めて、例えば保育資格を持っていなければ子どもを預かること出来ないが、少しの時間であれば、お子さんを見てもよいと思う時もある。
- ・この子育てサロンもとてもよいし、更に研修も重ねているというところも素晴らしいと思う。
- ・今のお母さん達は、子どもを学校が終わった後に預ける場所がなく、大変苦勞しているのもその点についても補うことができればよいのではないかと。

■委員

- ・こういう若いお母さん方からの子育て支援に対するニーズはあると思う。
- ・例えば、旦那さんが単身赴任されていて1人しか育てられないような、そういう状況におかれている人にとって、困った時に何か助けてくれるような、助け合えるような組織があるという情報も含め、こういった事業の存在は非常にありがたい。
- ・こういう奨励金の支援事業として取り上げたことで、地域における子育て支援を牽引していく、そういう象徴的な存在になって欲しいという意味で、この事業の意味は大きいと思う。

■委員

- ・子育て支援とか、このような組織の活動はあちこちにあるのだろうか。

■委員

- ・あちこちにある。総称は子育てサロンというが、中学校区ぐらいの単位で、就学前のお子さんと保護者を対象に1ヶ月1～2回程度の事業をやっている。参加費をとっていたり、行事として、クリスマス会をやったりしている。

■委員

- ・（奨励金事業について）結構派手な事業をやっているという印象だ。

■委員

- ・各地域で細かくやっているところと合同して、規模の大きい事業をやったりしている。これが毎回ではちょっと続かない。

■委員

- ・子育てメイトというものは八戸にはない。

■事務局

- ・昔、県の事業で子育てメイトをやった方々がいらっしやって、その方々が連携してサロンをやり始めている。そのサロン事業が移行して、市の事業に変わってきているという形である。

■委員

- ・この方たちは、あえて子育てメイトという名称を残したということか。

■委員

- ・名称を使うことについて、県では、お使いになるのであればどうぞ、ということのようだった。

■委員

- ・こちらの団体は2回目の申請である。1回目はイベント的な部分が強く、いろいろと備品を購入されていたが、団体さん自体も子育てサロンがなくなって、次はどうするかという中で、事業拡大という形で応募されてきた。
- ・この団体自体が継続しているという意味では、うまく奨励金を活用できたというイメージがある。

■事務局

- ・この子育てサロンの事業は、毎月第3何曜日とか、第1何曜日とかいった定例の事業については市の委託事業としてやっており、市から委託料を払っている。
- ・奨励金を申請している事業は、市の委託事業とは別に、同じサロンをやっている何人かが連携して、この大きいイベントをやるための補助金申請をされたと認識している。そうでないと、市の事業との整合性が取れなくなる。
- ・県がやっていた子育てメイトの事業は、市の事業として、今現在も継続して実施している。ただ、子育てメイトという名称は、市の事業として使っていない。
- ・子育てメイトをやっていた方々が、子育てサロンの方へ事業移行されて、サロンをやっている方々のうちの何人かが連携して、この大きなイベント事業をやりましょうということだと思う。その点を区別して考えていただきたい。

■委員

- ・団体は、今後もこのような大きな事業をやりたいという考え方を持っているのだろうか。

■委員

- ・やりたいと思っているようだ。事業費が大きいので、補助金頼みになっている部分がある。

■委員

- ・このような大きい事業をやることによって、普段の活動をPRしようということではないのだろうか。

■事務局

- ・この事業はこの事業としてやっていると思う。
- ・申請団体のメンバーが活動しているそれぞれのサロンの紹介もたくさん出ているが、市でやっているサロンはもっとたくさんある。

■委員

- ・この人達と仲のよいメンバーと一緒にイベントをやりましょうというので、こういう補助金を申請して大規模にやっている。
- ・その他の人は、同じようなものをお金を掛けずにやっているようだ。いろいろある。

■委員

- ・助成金をあちらこちらから貰っているから出来るということもあると思う。
- ・アンケートを見ると、無回答の部分が大きい。アンケートに真摯に向き合わなかった参加者なのか。もう少し参加者意識の拡大をして欲しい。
- ・全体的に無回答が多いのではないかと思う。どのようなアンケートの取り方をしたのかを聞きたい。

■委員

- ・責任者でないと答えられないような設問、例えば「関係機関に対して予算を希望していますか？」などというのは、メンバーの方だと答えづらい。
- ・支援者研修会のアンケートを見れば、責任者でないと答えられないような回答のようなものがある。
- ・無回答が多いというのは、そのアンケートの設問の作り方に工夫が必要かもしれないということもある。

■委員

- ・参加されている方が、団体の責任者なのか、メンバーなのかで回答できる範囲が変わってくる。その辺かもしれない。

■委員

- ・無回答が多いのは、多分そうだろうと思う。

■委員

- ・全く記入していなければ回答者にならないので、回答者数が39名というのは、どこかは記入しているということだろう。

■委員

- ・事業拡大支援として、この団体はこの団体として、こういったネットワークを通じての事業をしていこうということ言えば、結果を出せたという感じがある。

■委員

- ・小さいお子さんを持っている人は、こういうイベントをやるといえば行ってみたいと思うし、そういう事業としては評価される事業だと思う。
- ・地域で細かくやっている子育てサロンにも、たくさん人が集まっている。
- ・ただ、結構お金がかかっているのだから、その解決をご自分たちでもやはり検討していかないとならないのではないだろうか。

■委員

- ・助成金で購入した様々な備品は、その他のサロンで共有して、それぞれでまた使っているのだろうか。それとも年に1回、このイベントだけで使用しているのだろうか。

■委員

- ・おもちゃなどを分けていたので、共有していると思う。回して効率よく使っているようだ。

■委員

- ・着ぐるみなども買っている。やり方次第だろうか、それほど補助金がなくても出来るのではないかという気がしないでもない。

■委員

- ・市の奨励金では人件費は認められないが、他の財団では認められるものもある。そういうものをどういう形にしてクリアにしていくかということである。

事業拡大支援コース総評案

★事業拡大支援コース総評案★

- ・核家族や共働き世帯の増加などの影響による、子育ての孤立化が社会問題化している今、地域で子育て世帯を支援しようという取り組みは大変重要かつ、意義のある活動である。
- ・子育てフェアは、単なる楽しいイベントで終始することなく、親子で楽しみながらも子育てについての相談や学びが気軽にできる構成となっている点が素晴らしい。
- ・開催回数を重ねるごとに、（今回で4回目）イベント内容がより充実したものになっており、参加者の多さから見ても、その活動に対する認知度が市民に定着してきていることが伺える。
- ・また、単に子育て世帯を支援するだけでなく、支援をする側の方々との連携強化を図り、活動範囲を広げて行こうという取り組みについても評価できる。
- ・今後も、さまざまな団体と連携し、活動内容をより充実したものにしていきたい。また、毎年継続して開催していただくためにも、助成金に頼らない開催方法についても、検討していただきたい。

■市民提案制度にかかる事業

下長地区連合町内会 / 町内会加入促進モデル事業

■事務局

- ・評価する点としては、アンケート調査、ワークショップの実施を経てガイドブックを作成するといった事業プロセスがよかった、協働するパートナー間の適切な役割分担がなされている、ガイドブックについて、活字にすると様々な形で協力が進みやすくなるという意見があった。
- ・意見・アドバイスとしては、今後の事業の実践や、他地域への波及効果に対する期待が多く寄せられている。

■委員

- ・白銀地区は高齢者が多くなってきていて、町内会の回覧を回すなどの仕事がきついで止めたいという方が多い。
- ・こういう事業を進める中で、町内の未加入者が加入したことに対して、どういう手腕でやったのかということに興味がある。

■事務局

- ・アパート入居者の方が数件加入したと聞いている。この事業によって大量に加入したというわけではないが、アンケート調査をする時に、町内会の方々が自分達でアンケート用紙を持参し、対面をお願いして記入・回収をするという形をとっている。

- ・単にアンケートに答えていただくだけでなく、町内会の活動内容や役割が理解出来るような内容になっている。
- ・そういう中で、そういう役割があるのだったら入ろうかという方がいたと聞いている。

■委員

- ・努力や汗を非常に感じる事業だというのは、全体の印象として見受けられる。

■委員

- ・アンケートで半分の回答を得たということだが、その中で、町内会の勧誘をする人が家へ来たことがないという回答が 800 件近くあるということで、町内会を運営する人の自覚や認識が変わるのではないかという感じがする。
- ・自分たちは、班長が行っているとか、ここはあの人が行ったはずだという程度の感覚でいるだろうが、800 人もの人が、勧誘を受けたことが無いという事実があり、驚くこともある。この辺についての町内会会員の認識が新たになると思う。
- ・町内会の勧誘をしても、それほどいきなりは増えない。ポチポチでいいと思う。こういう活動の効果が 3 年、5 年というスパンで出てくるのだろう。
- ・町内会の役員としても認識をこれで新たにしたらろうし、町内毎にまた戦略を練るだろうし、やったことの意義が非常に高いと認識している。

■委員

- ・他の町内の人が見れば非常に勉強になるような資料である。自分の町内と比べてどうかという視点で見ると、やはり全く違う。
- ・私の町内はそれほど加入率が低くなく、それほど困っていない状況だが、他地区ではこういう所で困っているというのはとても勉強になる。
- ・高齢化が進んでいる地域では、町内会費を半額にしたり、ゼロにしたり、活動に参加しなくてもよいし、班長もやらなくてもよいから止めないで入っていて下さいという感じでやっている。そういった地域もあるので、それぞれぜんぜん違う。
- ・下長はこのようにやっているということがとても勉強になった。とてもよい資料だと思う。

■委員

- ・(下長地区には) 県営団地・市営団地がある。近い将来、ほかに引っ越しするからという理由が結構多いということも、地域性があるのだろう。
- ・地域も大変だし、行政側も大変な事業である。1 年間お疲れ様でした。

■事務局

- ・アンケートの調査結果や実際に作ったガイドブックを含め、モデル事業をやってどうだったのかということも含めて、これから報告書を作成する予定である。

■委員

- ・これだけの事業の成果物ということで、報告書の完成を楽しみにしている。

★市民提案制度による協働事業総評★

- ・地域と行政が共に情報共有を図りながら、互いの役割分担の下に連携して事業を進めており、両者での協働がよい形で進められた事業である。
- ・アンケート調査では、実際に足を運んで住民一人ひとりの声を丁寧に汲み取ることで、町内会に対する住民意識についての現状把握を行い、ワークショップでは、地域住民自らがそれぞれの町内会の在り方を見直すことにより、町内会に対する住民意思の共有を図ることができた。
- ・これらを踏まえて完成した「町内会加入促進ガイドブック」は、これまで漠然としていた町内会の活動というものについて、誰が見てもよくわかる素晴らしい内容となっている。
- ・今後は、このガイドブックの実践計画に沿った活動を進めて行くということで、安全安心で快適に暮らすことができる地域づくりを着実に進めていただきたい。
- ・この度の震災では、町内会をはじめとする地域のつながり、助け合いの大切さを改めて見直すきっかけとなった。加入促進活動を実践することで、下長地区の地域力がさらに強固なものとなるよう応援している。
- ・町内会加入率の低下は全市的な問題であり、他地区でも同様の悩みを抱えている。八戸市のモデル地区として、他の地区へもこの取り組みを紹介していただき、市全体での町内会加入促進につながる起爆剤となることを期待している。

(次第4) 今後のスケジュール

- ・ 6月4日(土) 平成22年度実施事業 協働のまちづくり「活動成果発表会」開催